

2. 歴史文化を活かしたまちづくりの意義

①個性的なまちづくり、そのまちらしさにつながる

- ・歴史文化ゾーンにおいては、近世の城下町の町割りや寺町、近代建築、契沖の由緒など、有形無形の歴史や文化の蓄積がまちの個性を生み出している。
- ・作り壊す（スクラップ&ビルド）時代から、守り育む（ストック活用）時代を迎える中で、地域の歴史文化的資源の魅力を引き出し、活用することが、個性的で持続的なまちづくりにつながる。

②市民が地域に愛着をもつ、わがまち意識が育つ

- ・庶民の暮らしの1コマ、1コマも歴史で、お城や寺町といった歴史と同時に、「庶民の歴史、身近な歴史」もまちにはある。
- ・そうした歴史文化を掘り起こしていくまちづくりを進めていく中で、市民一人ひとりがわがまちの地域史を知り、まちへの愛着を育むことにつながる。

③生涯学習、地域学習など、子育て環境として魅力的なまちになる

- ・地域の歴史文化にふれて、学び、これからのまちづくりを考える場や機会を設けることで、生涯学習や地域学習の環境が整う。
- ・さらに歴史的建築物などの地域資源が保全され、そこに市民が施設の運営や企画に参画しつつ、生涯学習や地域学習の場や機会として活用されているまちは子育て層にとっても、またリタイヤ層にとっても魅力的である。

④ボランティア活動などで、市民まちづくりが活発になる

- ・歴史や文化を自ら調べ学ぶだけでなく、歴史文化の調査や史料の整理などのボランティア活動に参加する人も多い。また地域活動やまちづくり活動の第一歩は地域をよく知ることであり、地域史研究は市民によるまちづくり活動を活性化する契機としても期待される。

⑤魅力的なまちをつくるのが、歴史文化観光、都市観光へとつながる

- ・地域の歴史文化にふれる環境が整い、市民のまちづくり活動が活発なまちは市民にとって魅力的である。
- ・そうしたまちには外部の人も魅力を感じ、そのまちの歴史文化に触れ、まちの奥深い魅力を体験したいと望み、歴史ツーリズムや都市観光へとつながり、まちの活気が生み出されていく。

3. 城内地区まちづくりの目標（基本方向）

（1）全市的な位置づけ

「尼崎市総合基本計画第2次基本計画（平成12年12月）」において、阪神尼崎駅南は「歴史文化ゾーン」として位置づけられ、地域資産を生かした、歴史、文化の視点からの魅力づくりを進めることが方向付けられている。

（2）目標

懐かしさにふれ 地域を学び 新たな活動が生まれるまち 城内に向けて

- 歴史文化にふれ、懐かしさや安らぎを感じられるまち
- 市民や子供たちが地域を学ぶまち
- 市民の新たな活動や交流が生まれるまち

尼崎は産業都市としてのイメージが強いが、近世には尼崎城があり都市文化も繁栄していた。それもまた尼崎の顔である。

尼崎に残る歴史文化的資源を保全活用し本物の魅力を高めていく中で、市民活動の活性化、都市イメージアップをはかっていく。

城内地区は、そうした尼崎の新しいまちづくりの発信地であり、市民が集い、地域を学び、新たな活動が生まれるまちづくりをめざす。

(3) 基本方向

①歴史文化の拠点

- ・かつてお城が築かれ、街の繁栄の基礎となった地区であることから、全市的視点をもって歴史文化の拠点づくりを進める。
- ・そして従来からの産業、ものづくりのイメージに加えて、尼崎市における歴史文化を保存・継承し、歴史文化を有する都市としてのイメージの付加へとつなげる。
- ・そのことが尼崎市の歴史文化にかかる市民の学習・研究・ボランティア活動等を促進し、新たな文化発信の拠点とするとともに、都市の格を上げる。

②本物の魅力

- ・作り壊す（スクラップ&ビルド）時代から、守り育む（ストック活用）時代を迎える中で、現存する本物の近代建築等の歴史文化に触れることで、本市の歴史に根ざした地域個性を“魅力”として高めていく。
- ・地域資源の歴史的価値を再評価のうえ、活用し、新たな先端的文化の醸成へと活かしていくものである。

③まちの活力

- ・城内を拠点に、寺町や築地・大物、ユニチカ記念館などを結びつけ、歴史文化を活かした一体的なまちづくりを展開する。
- ・歴史文化ツーリズムなど都市観光の誘引、中央・三和・出屋敷商業エリアとの回遊性の創出、快適な散策ルートの設定など、まちに人の元気があふれる活力あるまちづくりの波及・創出をめざす。

④人材の育成

- ・小学生、中学生、高校生達が、自らが暮らすまち（＝尼崎）の歴史文化に気軽に触れて、学び、そして未来のまちを創造できる場を提供する。
- ・教育・研究機関等と連携し、大人や地域の人々が支援することにより、広範で高度な学習・情報発信の機会を創出し、城内地区や尼崎への愛着心、誇りを育む。

⑤市民活動の活性化

- ・歴史文化の拠点における地域研究等の市民活動、ボランティア活動、NPO等民間によるプログラム提供、企業等の参加を得た展示など、多様な主体の活動・育成拠点としての機能を強化する。